

DAITOU SHI

大東市

わたしのまちの

自慢

です！

野崎まいりは春の河内の風物詩

野崎まいりについて

「♪野崎まいりは 屋形船でまいろう♪」。これは昭和初期に東海林太郎さんが歌って大ヒットした「野崎小唄」の一節です。地元では「観音さん」の名で親しまれている野崎観音（慈眼寺）は大東市内にある曹洞宗のお寺です。

歌に出てくる「野崎まいり」とは、ここで毎年5月に行われる「無縁経法要」のことで、始まったのは江戸時代の寛文から元禄期の頃までさかのぼります。ちょうど大阪町人や近郊の農民たちの間で行楽を兼ねた社寺詣でが盛んになり出した頃で、野崎観音は眺めも良く、大阪から日帰り出来ることもあって人気を集めました。

近松半二作の人形浄瑠璃『新版歌祭文』では、有名なお染め、久松の心中物語の舞台として野崎観音が登場し（野崎村の段）、また上方落語『野崎まいり』には、野崎観音に船でお参りする人と堤を歩いてお参りする人が互いに罵り合う、「ふり売り喧嘩」という奇習があったことが面白おかしく語られています。

交通手段の変化により参詣の仕方もおのずと変わり屋形船でのお参りこそ出来ないものの、今でも毎年5月1日から10日間行われる法要期間中ともなれば、JR野崎駅前から続く参道には、300軒余りの露店が並び、20万人を超える人出でにぎわいます。



お染め久松の碑

●後世に引き継ぐ財産として

大東市では、来年度に迎える市制50周年の記念事業として、だいとう学編さん事業に取り組んでいく予定です。そこでは、野崎まいりをはじめ地域に根付いた民俗文化や風習などをかけがえのない財産として、後世にきちんと引き継ぎ出来るよう市民の皆さんと協働で編さん作業に取り組んでいきます。

菜の花咲く春の川を屋形船が行き来した往時の面影はありませんが、野崎まいりは昔も今も春の河内の風物詩です。散歩がてらぜひ一度お越しください。



大東市市制施行
50周年記念ロゴマーク



野崎観音（慈眼寺）

● お問い合わせ先 ●

大東市政策推進部企画調整課

TEL:072-870-0404

FAX:072-872-2291

mail:kikaku@city.daito.osaka.jp